

メディウエル通信クラヴィス

Clavis

8/25

August 2013

vol.399

特集

病棟数・病床数の見直しは必至
適正対応の準備
急がれる

呼吸ケアの視点について講演 神戸大学大学院 石川朗教授

神 戸大学大学院保険学研究科地域保健学領域教授・医学部教授の石川朗氏が講師を務め、呼吸リハビリテーションについての研修会を社会医療法人高橋病院の主催で函館市中央図書館で開催した。当日はリハスタッフを中心に約 100 名の参加者が来場し、『リハビリテーションにおける呼吸障害・呼吸ケアの考え方』をテーマに講演が行われた。

呼吸リハビリテーションの中に位置する呼吸理学療法は、呼吸障害の予防と治療を目指して行われる。慢性期呼吸不全に対して、急性増悪の予防と治療や肺合併症の予防と治療、ADL・QOL の向上を目的にリハビリを実施する。

石川教授はリハスタッフが、より医療者として患者のサポートが行えるようになることを推奨。「2～3日食が進んでいない、元気がないなど患者の様子がいつもと少し違う感じがする時は、肺炎が発生している可能性もある。病



棟に患者を返す際、病棟の看護師にいつもと様子が違うことを伝えること」を行うことで、肺炎の早期発見につながり、重症化せずに ADL の低下を防ぐきっかけを作ることができる。また、発熱などについても「病棟から患者の調子が悪いからリハビリを休む連絡があった時も、『分かりました』で終わるだけでなく、どのような状態なのか、リハスタッフとして何をすべきで、何はしてはいけないのかを考えるべき」と説明する。誤嚥性肺炎を予防する体位変換や、既に合併症の症状がある場合の排痰体位や歩行試験時の安静時と歩行時を計測するなど、注意事項についても解説した。 【コンサルティング事業部 隅廣】